



3 - ②. 学習内容[古典]

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点				
					①	②	③	④	⑤
1 学期	4	・古文「説話」(宇治拾遺物語)	<b>【古文】</b> ◎古文の文体に触れ、内容や展開を理解し暗記する。 <b>【漢文】</b> ◎故事成語の成り立ちを知り、漢文への関心を高める。	授業への取り組み、課題提出状況、小テスト成績、定期考査成績など、学習活動全般における学力の伸長や態度、姿勢を総合して評価する。	○	/	/	○	○
	5	・「はぎとり式古典文法マスタードリル」							
	6	・古文「徒然草」(随筆)							
	7	・漢文「漢文の基礎」 ・漢文「知音」「朝三暮四」「塞翁馬」(故事成語)							
2 学期	9	・古文「伊勢物語」(歌物語)	<b>【古文】</b> ◎平安時代における和歌の役割を理解する。 ◎古典文法を覚え、読解に役立てる。 <b>【漢文】</b> ◎内容を理解し、古代中国の考えを理解する。 ◎基本的な句法を覚え活用する。		○	/	/	○	○
	10	・漢文「鶏口牛後」(史伝)							
	11	・漢文「鶏鳴狗盗」(史伝)							
	12	・古文「土佐日記」(日記) ・漢文「臥薪嘗胆」(史話)							
3 学期	1	・古文「奥の細道」	<b>【古文】</b> ◎話の展開を理解し、登場人物の心情を読み取る。 ◎敬語を理解する。 <b>【漢文】</b> ◎寓意を含む内容を読み、内容を理解する。 ◎漢詩について理解する。		○	/	/	○	○
	2	・漢文「雑説」 ・漢文「論語」							
	3	・漢文「絶句・律詩」など(漢詩)							

4. 学習方法

- ①予習や課題提出を常に100%行う。 → 《必ず結果に結びつきます》
- ②「入学のしおり」(合格者登校に配付)に書いてあること、4月の最初の授業担当者から説明されたことを徹底し、日々の授業を中心に主体的に学習に取り組む。
- ③一年次は基本事項の習得のため、授業内容や小テスト等はその都度必ず見直し、繰り返し復習を行って定着させる。

5. 教科担当者より

**【現代文】**  
 「現代文って何を勉強したらいいかわからない。」というような声をよく耳にします。現代文の力を身につけるために最も大切なことは、《自分の頭を使って考える》ということです。現代文で扱う文章は、評論文も小説も、今私たちが生きているこの社会の問題点を鋭く説明している文章です。一見自分とは関係なさそうに見えるテーマでも、必ずどこかであなた自身の生活とつながっています。自分自身との接点を見出し、自分の問題としてとらえ、考えを深めていってください。また、私たちは自分とは異なった他者の考えに触れることで、新しいものの見方を獲得したり、自分の考えを修正してより考えを深めたりすることが可能となります。多くの考えを吸収し、あらゆる問題を自分に引き付けて考える中で、論理的な思考力は自然と身につくものだと思います。

**【古典】**  
 高校になって、途端に古典嫌いになる人が多くいます。理由を聞くと「難しいし、何のために勉強するのか分からない」というのがほとんどです。では、古典を勉強するのは本当に無意味なことなのでしょうか。そんなことはありません。千年以上昔の書物を、現代に生きる私たちが読んで共感することができるというのは素晴らしいことだと思います。古典文学が教えてくれるのは、「何年たっても、人間の本質的なものは変わらない」ということです。古典文学を読み解くためには、どうしても文法・句法事項が必須条件のため、多少の努力が必要です。しかし、それらを一度身につけてしまえば、古典はみなさんにとって至極身近で面白いものになるはず。そうして学んだ人間の姿は、皆さんの心を豊かにしてくれることでしょう。

1年後の皆さんの視野がより広がり、考えがより深まっていることを期待しつつ、皆さんが毎時間新しい発見ができるような授業をしたいと考えています。

平成31年度 1年生シラバス

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
公民	現代社会	2	必修	1	全HR
使用教科書	「高校現代社会新訂版」(実教出版)				
副教材	「本質が見えてくる最新現代社会資料集新版2019」(第一学習社)				

1. 学習の到達目標

- ①広い視野に立って、現代の社会と人間について理解する。
- ②現代社会の基本的な問題について主体的に考え、公正に判断できるようになる。
- ③人間としての在り方生き方について考える力の基礎を養う。
- ④良識ある公民として必要な能力と態度を身につける。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①関心・意欲・態度	現代社会の諸問題について関心を深め、理解しようとしているか。	20
②思考・判断・表現	適切に事象を判断し、自分の考えをまとめることができるか。また、それを的確に表現することができるか。	10
③資料活用の技能	示された資料を的確に活用することができるか。	10
④知識・理解	現代社会の基本的問題に対して理解し、考えることができるか。	60

具体的には ・授業に取り組む姿勢 (①, ③, ④)  
 ・課題の提出状況・内容 (①, ②, ③)  
 ・定期考査及び小テスト (③, ④) を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	地球環境を考える 資源・エネルギーとごみ 問題	地球環境・地球温暖化問題への 取り組み 省資源・省エネルギーへの取 り組み	レポート 行動観察	○	○	○	○
	5 月	現代社会の特質	大衆化社会 少子高齢化社会	定期考査			○	○
	6 月	青年期の意義と課題	青年期と自己形成 職業生活と社会参加	定期考査			○	○
	7 月	現代の経済社会と政府の 役割	現代の市場と企業 国民所得と景気変動 金融と財政	小テスト 行動観察			○	○
	8 月							
2 学期	9 月	経済活動のあり方と国民 福祉	中小企業と農業 公害・消費者問題 雇用と社会保険	小テスト			○	○
	10 月	現代国家と民主政治	基本的人権の保障 国民主権 現代世界の政治制度	レポート 定期考査	○	○	○	○

	11月	日本国憲法と国民生活	日本国憲法の成立 平和主義 基本的人権の保障 人権のひろがり 政治機構と国民生活 地方政治と住民参加 選挙と政党 21世紀の政治参加	小テスト 行動観察	○		○	○
	12月	民主社会の倫理	生命の尊重、人間の尊厳と平等 自由と権利、責任と義務 民主社会に生きる倫理	定期考査 行動観察	○		○	○
3学期	1月	国際社会の動向	国際社会と国際法の意義 国際組織の役割 国際政治の動向 人権保障と人種・民族問題 核兵器と軍縮問題	小テスト レポート	○	○	○	○
	2月	国際経済の問題と日本の役割	国際経済の動向 貿易の拡大と経済摩擦	レポート 定期考査	○	○	○	○
	3月		南北問題 人類の連帯と日本の役割	行動観察	○		○	○

#### 4. 学習方法

- ・ 新聞、テレビなどのニュースを通じて時事的な問題に関心を持つこと。
- ・ レポート作成活動などにより、自分の考えを成長させることに努める。
- ・ 現代社会の諸問題について、大きな流れを理解するために副教材を効果的に活用する。

#### 5. 教科担当者より

毎日、必ず新聞を読んで、日本及び世界で政治・経済・社会にどのようなことが起きているのか、現代社会の特徴的な問題とは何なのかに関心を持つことが重要です。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
数学	数学 I	3	必修	1	全HR
使用教科書	改訂版 新編 数学 I (数研出版)				
副教材	類比方式による 数学 I・A (九州数学教育出版) フォーカス ゴールド 数学 I+A 4th Edition (啓林館) 改訂版 教科書傍用 4STEP 数学 I+A (数研出版)				

1. 学習の到達目標

①式を整理し、計算を正確に行う能力を養う。 ②数学的な見方や考え方のよさを認識し、興味・関心をもつ。 ③基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を培う。 ④定義を理解し、公式の運用力を育てる。
--

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①関心・意欲・態度	数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	20
②数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	30
③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30
④知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。	20

具体的には

- ・授業に取り組む姿勢 (①, ②, ③, ④)
- ・定期考査 (中間考査, 期末考査, 学年末考査) (②, ③, ④)
- ・提出物 (問題集の課題・ノート・プリント) (①, ②, ③, ④)
- ・小テスト、確認テストへの取り組み (①, ④) を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	数と式① ・式の計算 ・実数 ・1次不等式	平方根の計算などを復習し、数を実数まで拡張するとともに、1次不等式について理解を深める。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	5 月	数と式② ・集合と命題 2次関数① ・2次関数とグラフ ・2次関数の値の変化	2次関数について理解し、関数を用いて数量の変化を表現することの有用性を認識する。	中間考査 提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	6 月	2次関数② ・2次方程式と2次不等式 図形と計量① ・三角比	2次不等式の解法を理解する。三角比の意味を理解し、計量の考えの有用性を認識する。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	7 月	図形と計量② ・三角形への応用	図形の性質を論理的に考察し処理できるようにする。	期末考査 提出物	○	○	○	○

				授業への姿勢			
8 月	データの分析 1 学期の総復習	データのばらつきや偏りなど 数学的に考察, 処理できるよう にする。一学期に学んだことの 総復習を行い、理解を深める。	提出物	○	○	○	○
2 学 期	9 月						
	10 月						
	11 月						
	12 月						
3 学 期	1 月						
	2 月						
	3 月						

4. 学習方法

- ・次に行われる授業の分野を予習する。
- ・教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。
- ・教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。
- ・単元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。

5. 教科担当者より

・中学校では週 3 回程度しか数学の授業はなく、計算力が欠如する最大の要因です。高校の数学は基礎訓練が命です。日々の授業を真剣に聞き、課題をはじめ、予習復習を毎日地道にやるのが数学を得意にする唯一の方法です。1 年生で既に数学で出遅れた者は、2, 3 年生においてもほぼ 100% 数学を苦手科目としてひきずってしまい、将来の進路に大きく影響します。物事の多くは最初が最も肝心です。ぜひ数学を得意にしよう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
数学	数学Ⅱ	1	選択履修	1	全HR
使用教科書	改訂版 新編 数学Ⅱ (数研出版)				
副教材	改訂版 教科書傍用 4STEP 数学Ⅱ+B (数研出版) フォーカス ゴールド 数学Ⅱ+B 4th Edition (啓林館)				

1. 学習の到達目標

- ①式を整理し、計算を正確に行う能力を養う。
- ②数学的な見方や考え方のよさを認識し、興味・関心をもつ。
- ③基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を培う。
- ④定義を理解し、公式の運用力を育てる。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
① 関心・意欲・態度	数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	20
② 数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	30
③ 数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30
④ 知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。	20

具体的には

- ・授業に取り組む姿勢 (①, ②, ③, ④)
- ・定期考査 (中間考査, 期末考査, 学年末考査) (②, ③, ④)
- ・提出物 (問題集の課題・ノート・プリント) (①, ②, ③, ④)
- ・小テスト、確認テストへの取り組み (①, ④) を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					③	②	③	④
1 学期	4 月							
	5 月							
	6 月							
	7 月							
	8 月							
2 学期	9 月							
	10 月							

	11 月	式と証明① ・式と計算	展開, 因数分解, 整式の除法などの計算ができるようにする。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	12 月	式と証明② ・等式不等式の証明	等式, 不等式が成り立つことをそれらの性質を利用して証明できるようにする。	期末考査 提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
3 学期	1 月	複素数と方程式① ・複素数と 2 次方程式の解	複素数についての理解を深め, 2 次方程式の解の判別や解と係数の関係を活用できるようにする。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	2 月	複素数と方程式② ・高次方程式	因数定理を用いて高次方程式を解くことができるようにする。	学年末考査 提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	3 月	図形と方程式 ・点と直線 ・円	点, 直線, 円について, 図形と方程式を理解し, 解析することが出来る。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○

#### 4. 学習方法

- ・次に行われる授業の分野を予習する。
- ・教科書の例題を中心に解説されるので, 理解を深める。
- ・教科書の練習問題, 問題集, 参考書, プリントなどを使って演習し復習する。
- ・单元ごとに小テストを行い, その分野での理解を深める。

#### 5. 教科担当者より

・中学校では週 3 回程度しか数学の授業はなく, 計算力が欠如する最大の要因です。高校の数学は基礎訓練が命です。日々の授業を真剣に聞き, 課題をはじめ, 予習復習を毎日地道にやるのが数学を得意にする唯一の方法です。1 年生で既に数学で出遅れた者は, 2, 3 年生においてもほぼ 100% 数学を苦手科目としてひきずってしまい, 将来の進路に大きく影響します。物事の多くは最初が最も肝心です。ぜひ数学を得意にしよう。



教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
数学	数学A	2	選択履修	1	全HR
使用教科書	新編 数学A (数研出版)				
副教材	類比方式による 数学I・A (九州数学教育出版) フォーカス ゴールド 数学I+A 4th Edition (啓林館) 改訂版 教科書傍用 4STEP 数学I+A (数研出版)				

1. 学習の到達目標

①式を整理し、計算を正確に行う能力を養う。
②数学的な見方や考え方のよさを認識し、興味・関心をもつ。
③基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察し処理する能力を培う。
④定義を理解し、公式の運用力を育てる。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①関心・意欲・態度	数学の理論や体系に関心をもつとともに、数学のよさを認識し、それらを事象の考察に積極的に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	20
②数学的な見方や考え方	事象を数学的に考察し表現したり、思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して、数学的な見方や考え方を身に付けている。	30
③数学的な技能	事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	30
④知識・理解	数学における基本的な概念、原理・法則などについて理解し、知識を身に付けている。	20

具体的には

- ・授業に取り組む姿勢 (①, ②, ③, ④)
- ・定期考査 (中間考査, 期末考査, 学年末考査) (②, ③, ④)
- ・提出物 (問題集の課題・ノート・プリント) (①, ②, ③, ④)
- ・小テスト、確認テストへの取り組み (①, ④) を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月							
	5 月							
	6 月							
	7 月							
	8 月							
2 学期	9 月	場合の数と確率① ・場合の数	具体的な事象の考察などを通して、順列・組合せについて理解する。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○

平成 31 年度 1 年生シラバス

	10 月	場合の数と確率② ・確率 図形の性質① ・平面図形	具体的な事象の考察などを通して、確率について理解する。三角形や円など基本的な図形の性質についての理解を深める。	中間考査 提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	11 月	図形の性質② ・空間図形	空間における直線や平面の位置関係や多面体の基本的な性質を理解する。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	12 月							
3 学期	1 月							
	2 月	整数の性質① ・約数と倍数 ・ユークリッドの互除法	素因数分解やユークリッド互除法で公約数や公倍数の計算をできるようにする。また二元一次方程式を解けるようにする。	学年末考査 提出物 授業への姿勢	○	○	○	○
	3 月	整数の性質② ・整数の性質の活用	小数と n 進法について理解を深める。	提出物 授業への姿勢	○	○	○	○

4. 学習方法

- ・次に行われる授業の分野を予習する。
- ・教科書の例題を中心に解説されるので、理解を深める。
- ・教科書の練習問題、問題集、参考書、プリントなどを使って演習し復習する。
- ・単元ごとに小テストを行い、その分野での理解を深める。

5. 教科担当者より

・中学校では週 3 回程度しか数学の授業はなく、計算力が欠如する最大の要因です。高校の数学は基礎訓練が命です。日々の授業を真剣に聞き、課題をはじめ、予習復習を毎日地道にやることが数学を得意にする唯一の方法です。1 年生で既に数学で出遅れた者は、2, 3 年生においてもほぼ 100% 数学を苦手科目としてひきずってしまい、将来の進路に大きく影響します。物事の多くは最初が最も肝心です。ぜひ数学を得意にしよう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
理科	物理基礎	2	必修	1	全HR
使用教科書	新編 物理基礎 (教研出版)				
副教材	物理基礎 研究ノート (博洋社)				

1. 学習の到達目標

①様々な物体の運動を観察、実験、思考実験などによって探究し、運動やエネルギーについて物理的に見る・考えるための基礎的・基本的な概念・法則を理解する。
② ア. 熱と温度について原子・分子の熱運動の視点から理解し、熱の移動・熱と仕事の関係について理解する。 イ. 直線状に伝わる波の性質、音について音波の基本的性質、特に、気柱共鳴・弦の固有振動について理解する。 ウ. 電流と電圧、物質と電気抵抗・抵抗率、電力についての基本的理解、交流の発生、送電についての仕組みを理解する。
③人類が利用するエネルギーとその利用について物理的な視点から学び、日常生活を支える科学技術と物理が結びついていることを理解する。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	20
②思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見だし、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30
③観察・実験の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	20
④知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	30

このため、評価は、具体的には次のものを対象とします。

・学習活動への参加の仕方や態度 ・実験レポート ・課題(教科書の間、問題集、プリントなど)への取り組み ・ノート(準拠ノート)の作成状況 ・定期考査における思考・判断力を見る問題、同じく観察・実験に関する問題、同じく知識・理解に関する問題、及び関心意欲をもって勉強してきたかを見る問題 ・小テスト

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	第1編 運動とエネルギー 第1章 運動の表し方  第2章 運動の法則	・物理量の測定と扱い、運動の表現、速度・加速度について理解する。 ○力学台車、力学滑走台、ホバークラフト	実験・観察 研究ノート	○	○	○	○
	5 月		・様々な力、力のつり合い運動の法則、落下運動について理解する	小テスト 準拠ノート	○	○	○	○
	6 月		○フックの法則実験、力の合成・分解の作図、力学台車、水圧実験、自由落下実験 ○運動方程式	期末考査	○	○	○	○
	7 月		○摩擦力 圧力と浮力	実験・観察 研究ノート	○	○	○	○
	8 月							

2 学 期	9 月	第3章 仕事と 力学的エネルギー	・仕事, 運動エネルギー, 位置エネルギー, 力学的エネルギーの保存について理解する。	実験・観察 研究ノート	○	○	○	○
	10 月		○力学台車の衝突, ばねにつけた小球の振動, 斜面上の運動, 振り子	中間考査	○	○	○	○
	11 月	第2編 熱 第1章 熱とエネルギー	・熱と温度, 熱容量と比熱, 量保存の理解。熱力学第一法則, 熱機関・熱効率を理解する。	期末考査	○	○	○	○
	12 月	第3編 波 第1章 波の性質 第2章 音	・波を表す基本量, 基本式, 横波・縦波, 重ね合せ, 定常波, 自由端・固定端反射について理解。 ○ウェーブマシン, 波動実験用ばね, 映像 ・音波の基本的な性質, 弦の固有振動, (閉管・開管の)気柱の固有振動についての理解, 共振・共鳴について理解する。 ○波動実験用ばね, メルデの実験, 気柱共鳴実験, 映像	小テスト 準拠ノート	○	○	○	○
3 学 期	1 月			実験・観察 研究ノート	○	○	○	○
	2 月	第4編 電気 第1章 物質と電気抵抗 第2章 交流と電磁波	・静電気, 電気の基本的な性質 ・交流の性質 ○箔検電器, 電流計, 電圧計, 変圧器	学年末考査 実験・観察 研究ノート	○	○	○	○
	3 月			小テスト 準拠ノート	○	○	○	○

#### 4. 学習方法

- 1 予習として教科書を欄外のメモまで読み、疑問や気付きを持った状態で授業に臨む。
- 2 授業中よく分からなかったところはそのままにせず質問してその都度解決する。
- 3 定期考査の前には教科書と研究ノートの問題で演習を繰り返す。よく分からないところは早めに質問する
- 4 ノートには途中の式を省略せず、図は大きく詳しく描く。ノートは罫線に印の入った、線の引きやすいものがよい。

#### 5. 教科担当者より

- ・物理基礎は1年生にとっては文字式をつかった計算など、少し難しい内容を取り扱うときがあります。まずは授業に積極的に参加しよう。
- ・中学校の理科と違い、「授業が理解できた」ということと、問題を解くなど「自分で表現できる」ことはかなり差があります。日頃の宿題は少なめな分、定期考査の学習は早めに取りかかるよう心がけてください。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
理科	生物基礎	2	必修	1	全HR
使用教科書	数研出版 改訂版 新編 生物基礎 (生基 317)				
副教材	生物基礎研究ノート (博洋社)				

1. 学習の到達目標

- ①日常生活や社会との関連を図りながら、生物や生物現象への関心を高める。
- ②目的意識をもって観察、実験を行い、生物学的に探究する能力と態度を育てる。
- ③生物学の基本的な概念や原理・原則を理解させ、科学的な見方や考え方を養う。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①関心・意欲・態度	自然の事物・現象に関心や探究心をもち、意欲的にそれらを探究しようとするとともに、科学的態度を身に付けている。	20
②思考・判断・表現	自然の事物・現象の中に問題を見出し、探究する過程を通して、事象を科学的に考察し、導き出した考えを的確に表現している。	30
③観察・実験の技能	観察、実験を行い、基本操作を習得するとともに、それらの過程や結果を的確に記録、整理し、自然の事物・現象を科学的に探究する技能を身に付けている。	10
④知識・理解	自然の事物・現象について、基本的な概念や原理・法則を理解し、知識を身に付けている。	40

具体的には

- ・授業に取り組む姿勢 (①)
- ・実験レポート、その他レポート (①、②、③)
- ・定期考査 (②、④)
- ・課題への取り組み内容と提出状況 (①) を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	第1章 生物の特徴 1節 生物にみられる 多様性と共通性	・生物の共通性、細胞と細胞小器官、原核細胞と真核細胞、単細胞と多細胞などを考察、理解する。 ・代謝について理解する。	授業への姿勢	○			
	5 月	2節 細胞とエネルギー		実験等レポート	○	○	○	
	6 月	第2章 遺伝子とその働き 1節 遺伝子とDNA	・体細胞分裂の染色体、細胞周期とDNA量の変化。 ・DNAからmRNAへの転写、翻訳、タンパク質発現の調節を理解する。	定期考査		○		○
	7 月	2節 遺伝子の働き		提出物	○			
2 学期	8 月	第3章 体内環境と恒常性	・恒常性の働き、体液の循環、心臓、ヘモグロビン・血液凝固、腎臓、肝臓。ホルモン、自律神経系の働きを理解する。 ・免疫について、自然免疫と獲得免疫、免疫反応などを理解させる。	授業への姿勢	○			
	9 月	1節 生物の体内環境		実験等レポート	○	○	○	
	10 月	2節 体内環境を調節するしくみ		定期考査		○		○
	11 月	3節 生体防御		提出物	○			

3 学 期	12 月	第4章 植物の多様性と分布	・植物生活と環境。光合成速度について学習する森林の階層構造、遷移。 ・世界のバイオーム、日本のバイオーム等について理解する。 ・生態系、食物網、物質循環を理解する。	授業への姿勢	○			
	1 月	1節 植生と遷移 2節 気候とバイオーム		実験等レポート	○	○	○	
	2 月	第5章 生態系とその保全		定期考査		○		○
	3 月			提出物	○			

4. 学習方法

- ・授業で学習するさまざまな現象を、身近な事柄に結びつけて理解できるとさらに理解が進みます。
- ・ノートは、板書をそのまま写すだけでなく、色分けなど自分なりに分かりやすく工夫しましょう。
- ・疑問に感じた点や追究したい事柄をメモに残しましょう。
- ・実験には関心・意欲を持って取り組み、実験の技能を身につけましょう。安全には十分留意しましょう。
- ・問題集を積極的に解いて学習内容の定着を図りましょう。特に定期考査前には必ず問題集を解きましょう。

5. 教科担当者より

- ・授業の教材・教具を準備し、授業開始時には着席を完了しててください。
- ・移動教室の際は、休み時間の中に、余裕を持って早めに移動するように心掛けてください。
- ・実験は、注意事項をよく聞き、指示に従って事故のないように十分注意してください。
- ・実験は、実験班で協力して準備・実験・記録・整理整頓を行い、課されたレポートを提出しましょう。
- ・私たちの身の回りにある様々な事物に興味・関心をもち、科学的なTV番組や新聞記事にも注目しましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
保健体育	体育	3	必履修	1	全HR
使用教科書					
副教材 アクティブスポーツ (総合版)					

1. 学習の到達目標

- ① ICTを有効活用しながら運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを味わうことができるようになる。
- ② 体の調子を整えることや体力の向上を意識した生活ができるようになる。
- ③ 公正・協力・責任の態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を身につける。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
① 関心・意欲・態度	運動の楽しさや喜びを味わうことができるよう自ら進んで計画的に運動する。	25
② 思考・判断	自己の能力と運動の特性に応じた課題の解決を目指して、運動の合理的な行い方や計画的な活動の仕方を考え、工夫する。ICTを活用し、実践にいかすことができる。	25
③ 運動の技能	自己の能力と各種の運動の特性に応じた技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうとともに、体力を高めるための運動の合理的な行い方を身につける。	25
④ 知識・理解	生活における運動の意義や必要性及び運動の特性と合理的な行い方を理解するとともに、技術やルール・安全に関する知識を身につける。	25

具体的には

- ・主体的に授業に参加する姿勢とルールを遵守する態度
- ・グループの取り組みや活動状況・課題解決
- ・個人の取り組みや活動状況・課題解決
- ・グループや個人のスキルを主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	ICT利活用
1 学期	4 月	オリエンテーション  体づくり運動 体育理論 新体力テスト	・1年間の流れを知り、体育授業における決まりや評価の規準について理解する。 ・自分の体力要素について課題を知り、目標と計画を立てる。	・主体的・積極的な取り組み	
	5 月	選択1 陸上・器械運動・ダンス	○オリエンテーション ・授業のねらいや活動内容を知る ・授業の流れを知る	・主体的・積極的な取り組み ・安全に配慮した行動(ボールやコートなどの用具)	○タブレット PC を活用する。 ・手本となる動きと自分の動きとの比較を行い、課題を見つけ解決する。
	6 月	選択2 ソフトボール バレーボール	・個人・グループ活動における取り組み方を学ぶ	・コートなどの用具・施設の準備や片	

平成31年度 1年生シラバス

	7月	選択3 バレーボール バドミントン ソフトテニス ソフトボール	〈活動〉 一斉指導 ○基本技能を習得する ・用具の準備・片付け ・準備運動 ・基礎体力の向上 ・技能の向上 ・ルールの理解	付け・準備運動の様子) ・リーダーシップ ・協調性 ・練習方法の工夫 ・技能の向上の様子 ・ルールや審判法の理解の程度	・自分の動作・表現を確認する ・試合の様子をみて、どのように動かないといけないかを確認する。
2 学期	9月	体づくり運動 体育理論	グループ活動 ○練習やゲームを楽しむ ・用具の準備・片付け ・準備運動 ・チームスキルの向上 ・個人及びチームの戦術の向上 ・活動に対する課題意識 ・課題解決への取り組み		
	10月	選択3 (1学期より継続して中間考査まで実施)			
	11月	選択4 バスケットボール サッカー 剣道			
	12月				
3 学期	1月	選択5 バスケットボール			○タブレットPC・電子黒板を利用する。 ・シュートフォームや動きの確認をおこなう。 ○タブレットPC・電子黒板を利用する。 ・試合の様子をみてイメージをつくる。
	2月	バドミントン サッカー			
	3月	ソフトテニス			

4. 学習方法

〈選択制授業〉

- ・運動・スポーツの基礎基本や安全について学習し、自分にあつた種目を選択して活動をする。
- ・単元の始めに一斉授業で種目の基礎基本やルールについて学び、その後、グループ学習で主体的・積極的な態度で活動に参加し、仲間と協力をしながら工夫して技能の向上を目指して活動する。

5. 教科担当者より

- ・受け身の態度で授業に参加することなく、自ら積極的に活動することを求める。
- ・種目の特性を存分に味わい、楽しさを経験し、その楽しさを仲間と共有して、生涯スポーツへとつなげて欲しい。
- ・時間を守ることや元気な挨拶、体操服の着こなしなどの授業の約束事を守り、スポーツマンシップや社会性を養ってくれることを期待する。



平成31年度 1年生シラバス

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
保健体育	保健	1	必履修	1	全HR
使用教科書	現代高等保健体育改訂版（大修館）				
副教材	現代高等保健体育ノート改訂版（大修館）				

1. 学習の到達目標

個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるようにし、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、改善していくための資質や能力を育成する。

2. 指導または評価の観点（年間の評価）

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
① 関心・意欲・態度	個人及び社会生活における心身の健康や安全に関心を持ち、意欲的に学習に取り組んでいるか。	20%
② 思考・判断	個人及び社会生活における心身の健康や安全に関する課題の解決を目指して、科学的に思考し総合的にとらえることにより、適切な意志決定を行い、選択すべき行動を正しく判断できているか。	20%
③ 知識・理解	健康・安全の意義を理解するとともに、現代社会と健康について、課題の解決に役立つ基礎的な事項を理解し、知識を身につけているか。	60%

具体的には ・授業に取り組む姿勢（①、②、③）  
 ・ノート、プリント等の提出物（①、②、③）  
 ・定期考査（1、2学期期末考査と学年末考査）（③）を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			ICT利活用
					①	②	③	
1学期	4月	オリエンテーション 1 私たちの健康のすがた 2 健康のとらえ方	・わが国の健康水準や健康問題の変化について考える。 ・健康の側面について理解し、健康の成立要因や条件を考える。	取り組み ・発表 ・観察 提出物	○ ○	○ ○	○ ○	○タブレット PC・電子黒板を利用する。
	5月	3 健康と意思決定・行動選択 4 健康に関する環境づくり ・歴史からみた様々な健康問題の捉え方	・国内外における様々な保健活動や対策を理解する。 ・健康づくりを支える環境について理解する。 ・健康観の変遷について、歴史的背景を踏まえ学習する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物	○ ○	○ ○	○ ○	
	6月	5 生活習慣病とその予防 6 食事と健康 7 運動と健康	・生活習慣病の予防対策を具体的に理解する。 ・健康的な食生活の重要性について理解する。 ・健康づくりのための運動習慣の形成について理解する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物	○ ○	○ ○	○ ○	○タブレット PC・電子黒板を利用する。
	7月	8 休養・睡眠と健康 9 喫煙と健康 10 飲酒と健康	・よりよい休養・睡眠のとり方について理解する。 ・喫煙の健康影響について理解する。 ・飲酒の健康被害を防ぐ様々な対策について理解する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物定期考査	○ ○	○ ○	○ ○	

2 学 期	9 月	11 薬物乱用と健康 ・健康にかかわる行動 を考えてみよう 12 現代の感染症 13 感染症の予防	・薬物乱用防止について理解する。 ・健康的な生活習慣について考える。 ・感染症について予防の対策を理解する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物	○ ○	○ ○	○ ○	○タブレットPC・ 電子黒板を利用する。
	10 月	14 性感染症・エイズと その予防 15 欲求と適応機制 16 心身の相関とストレス	・性感染症・エイズについて予防策を理解する。 ・適応機制について理解する。 ・心身相関のしくみとストレスの原因を理解する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物	○ ○	○ ○	○ ○	
	11 月	17 ストレスの対処 ・ストレスに対処しよう 18 心の健康と自己実現 19 交通事故の現状と要因	・ストレスの対処法について理解する。 ・自己実現の道すじについて理解する。 ・交通事故の現状を理解する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物	○ ○	○ ○	○ ○	
	12 月	20 交通社会における運 転者の資質と責任 21 安全な交通社会	・運転者の資質や責任、補償について理解する。 ・安全な交通社会づくりについて理解する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物定期 考査	○ ○	○ ○	○ ○	
3 学 期	1 月	・防災・防犯をめざした 社会づくり 22 応急手当の意義とその 基本 23 心肺蘇生法	・防災・防犯について理解する。 ・応急手当の意義と手順について理解する。 ・心肺蘇生法の原理と意義について理解する。	取り組み ・発表 ・観察 提出物	○ ○	○ ○	○ ○	○タブレットPC・ 電子黒板を利用する。
	2 月	24 日常的な応急手 当 ・心肺蘇生法	・けがや熱中症の応急手当について理解する。 ・心肺蘇生法を実際にダミーを使っておこなう。	取り組み ・発表 ・観察 提出物定期 考査	○ ○	○ ○	○ ○	
	3 月	・1年間のまとめ	・1年間を振り返って、各自の健康的な生活について考える。	取り組み	○	○	○	

4. 学習方法

教科書を中心に授業をすすめ、電子黒板や資料等を活用しながら理解を深めていく。

5. 教科担当者より

「健康」とは何なのか、「生涯を健康で過ごす」ためには何が必要なのか。授業で追求していこう。

平成31年度 1年生シラバス

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
芸術	音楽 I	2	必修修 (選択)	1	全HR
使用教科書	MOUSA 1 (教育芸術社)				
副教材	なし				

1. 学習の到達目標

- ① 音楽の魅力に関心を持ち、意欲的・積極的に授業に参加し取り組む。
- ② 歌唱活動及び器楽合奏などの体験により、達成感・充実感を味わい、協調性を養う。
- ③ 活動全般を通して音楽を愛好する心を身に付け、生涯にわたり親しむことのできる資質と能力を養う。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①音楽への関心・意欲・態度	音楽の魅力や文化に関心を持ち、積極的に活動に取り組む姿勢を身に付けている。	30
②音楽表現の創意工夫	音のしくみ様々な楽曲を参考にしながら、独自の表現を工夫する。	25
③音楽表現の技能	楽曲作成の組み立て方や技法を身に付け、個性豊かな表現ができる。	25
④鑑賞の能力	音楽文化や表現方法などを理解し、多彩な魅力を味わう能力を養う。	20

このため、評価は具体的に次のものを対象とします。

- ・授業態度
- ・活動の様子、練習状況、発表状況、鑑賞の態度等
- ・鑑賞感想カードの記入や自己評価カードの記入、提出物状況等

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	(歌唱) 校歌・日本の音楽に親しもう	・発声の基礎を学ぶ。 ・日本の音楽 (ポップスも含む) に親しむ。	・学習態度 ・実技テスト ・ワークシート ・自己評価 ・相互評価	○	○	○	○
	5 月	(楽典) 音楽の決まりを知ろう	・記号や音符など、音楽の基本的要素を学ぶ。		○		○	○
	6 月	(歌唱) 合唱の響きを味わおう	・混声合唱を題材に、ハーモニーや声部の役割を知覚させ、表現につなげる。 ・曲想を歌詞の内容や楽曲の背景などと関わらせ、表現の工夫を目指す。		○	○	○	○
	7 月	(鑑賞) オペラに親しもう	・楽曲の文化的・歴史的背景や、作曲家および演奏者による表現の特徴に関心を持ち、鑑賞に対する学習に主体的に取り組む。		○			○
	8 月							
2 学期	9 月	(音楽史①) 日本・世界の音楽の歴史	・世界で親しまれている音楽と日本の音楽について、楽曲を通して比較しながら特徴を理解する。 ・日本音階の特徴をつかむ。	・学習態度 ・実技テスト ・ワークシート ・自己評価	○			○

	10月	(創作) 音楽をつくろうⅠ (器楽) 和楽器に挑戦	・日本音階を使い、簡単な作曲をする。 ・和楽器に親しみを持てるよう、基本的な奏法や特徴を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相互評価</li> <li>・ペーパーテスト</li> </ul>	○	○	○	○
	11月	(音楽史②) 世界の音楽の歴史	・西洋音楽史について、さらに時代を経た歴史について知り、その時代の音楽を鑑賞する。		○			○
	12月	アンサンブル 選曲・練習	・グループを作り、アンサンブルの楽しさを体感するとともに、発表会へ向けて計画的な練習をできるようにすることを目標とする。また、人前で堂々と演奏できるようにすることで、達成感を味わわせ、自己肯定感を高めることをねらいとする。		○	○	○	○
3学期	1月	アンサンブル 練習 発表会		<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習態度</li> <li>・ワークシート</li> <li>・自己評価</li> <li>・相互評価</li> </ul>	○	○	○	○
	2月							
	3月	1年間のまとめ						

#### 4. 学習方法

- ・基本的に、教科書を中心に授業を進めていきます。必要に応じて授業で使用する楽譜等はこちらで準備します。
- ・歌唱活動やアンサンブル活動は、パートまたはグループをその都度編成し、取り組みます。
- ・DVDやCDなどを活用し、多角的に音楽をとらえながら理解を深めていきます。

#### 5. 教科担当者より

- ・教科書・ファイル・筆記用具は毎時間必ず準備をし、忘れ物がないようにしましょう。
- ・授業では、さまざまな題材や楽器を多く取り入れ、多彩な活動を展開します。積極的に取り組みましょう。
- ・音楽室には授業で使用する楽器がたくさんあります。丁寧に扱い、後片付けをきちんとしましょう。

平成31年度 1年生シラバス

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
芸術	美術 I	2	必履修 (選択)	1	
使用教科書	高校生の美術 1 (日本文芸社)				
副教材	なし				

1. 学習の到達目標

美術の表現と鑑賞の能力を養うことで、独創性や感受性を育み、その生涯をより豊かにする。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①美術への関心・意欲・態度	美術を愛好し、表現の主題や様式などに幅広く関心を持ち、感性を高めて意欲的、主体的に表現や鑑賞の活動を行い、その喜びを味わおうとする。	30
②発想や構想の能力	感性を働かせて美術の良さや美しさを感じ取り、豊かに発想し創造的に表現を工夫する。	25
③創造的な技能	創造的な表現をするために、材料・道具を生かして表現する技能を身に付けている。	20
④鑑賞の能力	作者の心情や意図と表現の工夫、生活や自然と美術との関連、美術の歴史などを理解し、そのよさや美しさを味わう。	25

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	(美学基礎・デザイン) ・美術とは何か ・レタリング	美術とは何か、美の意味から考え直す事で制作の目標を決める。 文字の形や模倣の技術を学ぶ。	・授業への取り組み ・アイデアスケッチ	○	○	○	○
	5 月	(デザイン・絵画) ・平面構成 ・写真模写 (鉛筆)	ポスターカラーに慣れる。 色の効果を知る。レタリングを元にデザインの様々な技術を知る。 応用による写真模写。	・作品 ・鑑賞 ・自己評価	○	○	○	○
	6 月	(デザイン) ・看板制作	写真の模写に文字を当てはめる事でメッセージ性のある作品作りを試みる。	・相互評価 ・後かたづけ	○	○	○	○
	7 月	(デザイン) ・看板制作の続き	アイデアスケッチに重点をおき、作品作りの中の発想の必要性・重要性を学ぶ。 準備・使用・後片付けに至るまでの画材の取り扱いを知る。		○	○	○	○
	8 月							
2 学期	9 月	(絵画) ・読書感想画	1学期に学んだ技法や画材で、作品を作る。本の印象や感想を文字におこし、実際にあるものに例える等の試行錯誤や発想をし、感じたことをヴィジュアルにまで組み立てる。描くモチーフの観察を充分に行う洞察力を習得。	・授業への取り組み ・アイデアスケッチ ・作品 ・鑑賞 ・自己評価	○	○	○	○

	10月	”	鉛筆で表現出来る明暗や彩度を知る。	・相互評価 ・後かたづけ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	11月	(絵画) ・鉛筆による虹の模写 ・自画像のデッサン	応用として自分の表情のある顔をデッサンする。その周りの余白に、自分を表現する色を塗り、自由に模様等を入れることで自己表現する。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	12月	・自画像のデッサン ・色を使った自己表現			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
3学期	1月	(絵画・版画) ・スクラッチ表現	版画のスクラッチ表現。手を加えた部分が、鉛筆とは逆に白くなることを考慮した作品作りをする。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	2月	(鑑賞) ・模写、美術家のレポート	教科書の作品をアレンジを加えて模倣する。作者のねらいを考えたいでそれを覆す。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
	3月	(彫刻) ・模造(つぶれた空き缶・ペットボトル)	思考と発想の訓練。対象を多角的に観察する能力を身につける。 粘土の乾燥の対策を知る。		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

#### 4. 学習方法

- ・作品制作学習。各自の作業進度に差があるので、早くできた生徒には、その課題をより深める為の課題を準備。学校行事等の関係で学習項目が入れ替わることあり。

#### 5. 教科担当者より

##### ◎美術の授業について

- ・高校美術は必ずしも作品づくりばかりではありません。ものを見るための感性をのばし、自分自身の力で深く物事を観察する力を育むために、美術の歴史、技法の学習、鑑賞の方法まで幅広く活動します。

##### ◎美術学習の留意点

- ・「へた」、「じょうず」に関係なく、丁寧に最後まで仕上げた方がいい作品になります。
- ・チャイムが鳴る前に授業の準備をしましょう。
- ・道具は作品の命です。大切に扱きましょう。
- ・作品は授業中に完成させるように真剣に取り組みましょう。
- ・完成した作品はあなたの大切な分身です。自宅に持ち帰り飾るなどして鑑賞しましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
芸術	書道Ⅰ	2	必修修(選択)	1	
使用教科書	書Ⅰ(光村図書出版)				
副教材	必要な道具 筆、紙等(硯・下敷き・文鎮は備え付けています)				

1. 学習の到達目標

- ① 小中学校での書字を基本に、文字を素材とした芸術としての書道を学び、古典に基づく表現力、鑑賞力を身に付ける。
- ② 「漢字仮名交じりの書」「漢字の書」「仮名の書」篆刻、実用書(硬筆)における表現力を偏り無く身に付ける。
- ③ 書道の幅広い活動を通じて書を愛好する心情を育て感性を豊かにし、創造的な表現力を身に付ける。

2. 指導または評価の観点(年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価割合
①書への関心・意欲・態度	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具、用材についての関心を持ち大切に扱おうとしているか。</li> <li>・各種古典に関心を持ち、書的美を感じ取ろうとしているか。</li> <li>・意欲的に表現方法に取り組み多様な運筆、用筆を習得しようとしているか。</li> <li>・鑑賞活動を通じて、意欲的に喜びを味わおうとしているか。</li> </ul>	30
②書表現の構想と工夫	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多様な線質、結構による違いを感受し表現の工夫をしているか。</li> <li>・感性や鑑賞能力を磨くための工夫をしているか。</li> </ul>	25
③創造的な書表現の技能	用具、用材の特性を生かした創意工夫ある表現ができるか。	25
④鑑賞の能力	日常生活の中で、書のおよさや美しさを深く味わっているか。	20

以上の4観点を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4月	○書写から書道へ (書の世界にふれる)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・書の分野・用具、用材についての理解</li> <li>・書写の復習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・作品提出</li> </ul>	○	○	○	
	5月	○漢字の書 Ⅰ楷書	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(比較学習)・古典作品を比較することで、特徴・技法の理解を深める</li> </ul>		○	○	○	○
	6月	使用古典・「孔子廟堂碑」「九成宮禮泉銘」「雁塔聖教序」「顔氏家廟碑」「牛橛造像記」「鄭義下碑」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典の特徴・基本用筆の理解</li> <li>・作品鑑賞の方法・自らの言葉での表現を目指す</li> <li>・臨書学習による創作への素地づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントの記入</li> <li>・テスト</li> </ul>	○	○	○	○
	7月	○臨書から倣書へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・倣書による創作方法の理解</li> </ul>					
	8月							
2 学期	9月	○篆刻 ・姓名印の制作	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用具用材の用法・篆刻の手順の理解</li> <li>・篆刻の書作品における意味</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・作品提出</li> </ul>	○	○	○	
	10月	○漢字の書Ⅱ行書 使用古典・「蘭亭序」「風信帖」三稿(祭姪稿・争坐位稿・祭伯)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・行書の基本的なリズムや筆遣いの習得</li> <li>・真跡の鑑賞から総合的鑑賞の方法を知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コメントの記入</li> <li>・テスト</li> </ul>	○	○		○

平成31年度 1年生シラバス

	11月	○漢字仮名交じりの書 ・鑑賞 ・作品制作	・平安時代や江戸時代の古筆を鑑賞し漢字仮名交じりの書にふれる  ・「生きた言葉」を書で表現する ・創作の手順、用紙・線質・墨色など工夫の観点を知る	・制作意図の記入				
	12月	・表装	・表装の意義と手順の理解		○	○	○	○
3学期	1月	○仮名の書  ・作品制作	・仮名の成立・仮名の種類について学ぶ ・いろは歌・字源の理解 ・仮名独特な道具・用材・用紙に触れる ・連綿仮名の書き方を知る	・授業態度 ・作品提出 ・コメントの記入				
	2月	(料紙を使って)			○	○	○	○
	3月	○生活の中の書 ・(フォトフレームを使って)	・目的に応じた作品を制作する ・紙以外の素材を使って制作する	・授業態度 ・作品提出				
					○	○		○

4. 学習方法

・提出作品の出来も大切ですが、一時間一時間の授業に真剣に取り組む姿勢が重要です。

5. 教科担当者より

書は、漢字や平仮名、片仮名を素材として、筆者の意図や感動を表現する芸術です。書く人の心情や人間性が文字の上になじみ出て、独特の味わいを生みます。さまざまな書の美の鑑賞をとおして、書に親しむ心を養い、感性を豊かにしていきましょう。そして、自分の個性を生かした創造的な表現を楽しく展開しましょう。



教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
外国語	コミュニケーション英語Ⅰ	4	必履修 (選択)	1	全HR
使用教科書	MY WAY English Communication I (三省堂)				
副教材	クラウンチャンクで英単語 Basic (三省堂) システム英単語 Basic (駿台文庫) Elixir 2,3 (啓隆社) DREAM CATCHER 基本編 (いづな書店) Step by Step 4 Skills 1 CEFR A1 レベル, 2 CEFR A2 レベル (三省堂)				

1. 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	20
②英語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	20
③英語理解の能力	英語を聞いたり読んだりして、情報や考えなどを的確に理解している。	20
④言語や文化についての知識・理解	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	40

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	Lesson 1 A Story about Names	[題材内容] 名前をめぐる世界の状況 [言語材料] SV,SVO / SVC / SVO102 動詞と名詞	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト	○	○	○	○
	5 月	Lesson 2 Messages from Yanase Takashi	[題材内容] やなせたかしさんが伝えた メッセージ [言語材料] SVOC / SVO(O=that 節) / 比較級・最 上級 形容詞と副詞	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト 中間考査	○	○	○	○
	6 月	Lesson 3 Purposes of the Olympics	[題材内容] オリンピックの歴史とその目的 [言語材料] 助動詞 / 受け身 / 助動詞のついた受け身 主語と (述語) 動詞	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト	○	○	○	○
1 学期	7 月	Lesson 4 Hospital Art	[題材内容] 病院で見られるアート [言語材料] 現在進行形 / 現在完了形 / 過去完了形 前置詞句	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト 期末考査	○	○	○	○
	8 月	SOUNDS 1,2,3,4	[活動内容] 英語の音声の特徴を理解して聴き取る	授業中の活動 小テスト				○

2 学 期	9 月	Lesson 5 Writing Systems in the World	[題材内容] 世界のさまざまな文字 [言語材料] 動名詞 / to 不定詞の名詞的・副詞的・ 形容詞的用法 / It is ...to 不定詞 フレーズ・リーディング	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト	○	○	○	○
	10 月	Lesson 6 Washoku	[題材内容] 日本の伝統的な食文化 [言語材料] 関係代名詞 (主格・目的格・ what) / SVO1O2 (O2=how to ~) フレーズ・リーディング	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト 中間考査	○	○	○	○
	11 月	Lesson 7 From Landmines to Herbs	[題材内容] ハーブが作る未来 [言語材料] 現在分詞の形容詞的用法 / 過去分詞の 形容詞的用法 / 分詞構文 代名詞	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト	○	○	○	○
	12 月	Lesson 8 A Mysterious Objet from the Past	[題材内容] 古代ギリシャの沈没船から 見つかった謎の物体 [言語材料] 関係副詞 where, when, why / It is ...that ~ 時を示す語句	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト 期末考査	○	○	○	○
3 学 期	1 月	Lesson 9 Sesame Street	[題材内容] 世界中の子どもたちに愛さ れるテレビ番組 [言語材料] 条件を表す if 節 / 仮定法過去 / I wish ~ / as if ~ パラグラフ・リーディング	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト	○	○	○	○
	2 月	Lesson 10 Heritages of Beatrix Potter	[題材内容] ビアトリクス・ポターが残し た風景 [言語材料] SVO+to 不定詞 / SVOC(C=動詞の原形) / SVOC(C=現在分詞) / SVO1O2(O2=if/whether 節) パラグラフ・リーディング	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト 学年末考査	○	○	○	○
	3 月	From Hardship to Friendship	[題材内容] 泥棒が忍びこんだ家で出会 ったのは...	授業中の活動 発表 課題・レポート 小テスト			○	○

#### 4. 学習方法

- (1) 授業では、英語でコミュニケーションしようとする意欲を持ち、多様な言語活動に積極的に取り組む。
- (2) こまめに辞書を引き、単語の意味だけでなく、品詞や用法もよく読む。
- (3) 家庭学習では、授業の復習として音読を行い、重要表現は口からスラスラと出てくるまでを目指す。
- (4) 課題にはまじめに取り組み、必ず期限を守って提出する。
- (5) 英語検定やGTEC等の外部テストにも積極的にチャレンジする。

#### 5. 教科担当者より

読む・聞く・書く・話すの4技能の育成のためには、より多くのインプットを行い、間違いを恐れずに発信していくことが不可欠です。こつこつと地道な努力を重ねつつ、英語を使って積極的にコミュニケーションを図ることで、楽しみながら英語を勉強していきましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
外国語	英語表現 I	2	必修修(選択)	1	全HR
使用教科書	be English Expression I Standard (いいずな書店)				
副教材	CROSSBEAM-Bridge (エミル出版) be English Expression I Standard Workbook / My English Portfolio (いいずな書店) be 総合英語 3rd Edition (いいずな書店)				

1. 学習の到達目標

英語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに、事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
① コミュニケーションへの関心・意欲・態度	コミュニケーションに関心を持ち、積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとする。	20
② 英語表現の能力	英語で話したり書いたりして、情報や考えなどを適切に伝えている。	30
③ 言語や文化についての知識・理解	英語の学習を通して、言語やその運用についての知識を身に付けているとともに、その背景にある文化などを理解している。	50

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点		
					①	②	③
1 学期	4 月	中学校までの学習内容の復習 Lesson 1 I play soccer.	・中学校の文法事項の復習 ・自己紹介 ・現在形	授業中の活動 小テスト 課題・レポート	○	○	○
	5 月	Lesson 2 I went to Dubai with my family. Lesson 3 I've finished my homework. Lesson 4 The game had already started.	・休日 休暇 旅行 学習 ・過去形 未来表現 現在完了形 過去完了形 未来完了形	授業中の活動 小テスト 課題・レポート 中間考査	○	○	○
	6 月	Lesson 5 Can you give me a hand? Lesson 6 I have to prepare for a presentation. Lesson 7 You must have a fever.	・食事 学校 家庭 ・助動詞	授業中の活動 小テスト 課題・レポート	○	○	○
	7 月	Lesson 8 I was interviewed by the local paper. Lesson 9 I'll give you some paper clips.	・交通 交友 ・受動態 動詞に続ける2つの要素	授業中の活動 課題・レポート 小テスト 期末考査	○	○	○
	8 月	1学期の復習	・1学期に学習した内容の整理	課題・レポート 小テスト	○	○	○

平成31年度 1年生シラバス

2 学 期	9 月	Lesson 10 I want to become a comedian. Lesson 11 Do you have time to talk? Lesson 12 I told him not to do any exercise.	・将来 健康 病気 ・不定詞	授業中の活動 課題・レポート 小テスト	○	○	○
	10 月	Lesson 13 Would you mind me watching you? Lesson 14 I'm not used to using chopsticks. Lesson 15 We stayed in a room facing the sea.	・趣味 活動 通信 自然 ・動名詞 不定詞と動名詞の使い分け 分詞	授業中の活動 課題・レポート 小テスト 中間考査	○	○	○
	11 月	Lesson 16 I had my hair cut yesterday. Lesson 17 The tablet that I bought doesn't work right. Lesson 18 He scored the goal, which was fantastic!	・事故 災難 発明 成果 業績 ・分詞 関係詞	授業中の活動 課題・レポート 小テスト	○	○	○
	12 月	Lesson 19 That's why they've been married so long! Lesson 20 This winter is much colder than usual. Lesson 21 Tokyo is the largest city in Japan.	・都市 町 生活環境 社会問題 ・関係詞 比較	授業中の活動 課題・レポート 小テスト 期末考査	○	○	○
3 学 期	1 月	Lesson 22 If I were you, I would apologize to him. Lesson 23 It's time we started talking about our presentation.	・ビジネス エネルギー ・仮定法	授業中の活動 課題・レポート 小テスト	○	○	○
	2 月	Lesson 24 I thought you explained your point very well. Lesson 25 It's important that you keep it a secret.	・グローバル化 地球 ・文をつなぐ	授業中の活動 課題・レポート 小テスト 学年末考査	○	○	○
	3 月	1年間の総まとめ	・上記の4月～2月を参照	授業中の活動 課題・レポート 小テスト	○	○	○

4. 学習方法

表現の基礎となる文法事項を理解し、それを使って、日常生活に関連のある身近な話題について、読む・聞く・書く・話すの言語活動を総合的に関連させて学習をする。

5. 教科担当者より

積極的な態度で様々な表現活動に臨むことは言語を習得するときに大変重要なことです。授業中の活動にも積極的な態度で取り組み、できるだけ多くの英語表現に触れ、間違いを恐れずにどんどん英語を使って表現し、コミュニケーション力をつけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
家庭	家庭基礎	2	必履修	1	全HR
使用教科書	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)				
副教材	自立・共生・創造 家庭基礎学習ノート【教科書準拠】(東京書籍) 2019 最新生活ハンドブック 資料+成分表 (第一学習社) 家庭科学学習ノートファイル 新課程改訂版 (佐賀県高等学校教育研究会家庭部会編)				

1. 学習の到達目標

- ① 家族や生活の営みを人の一生とのかかわりの中でとらえ、家族や家庭生活のあり方、乳幼児と高齢者の生活と福祉、家族の健康と衣食住、消費生活と環境などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得し、男女が協力して家庭生活の充実向上を図る能力と実践的態度を養うことができる。
- ② 家庭科の学習を通して学んだことを実践に移して、自分や回りの生活を主体的に設計することができる。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
① 関心・意欲・態度	家庭や地域の生活について関心を持ち、その充実向上を目指して意欲的・主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身につけることができたか。	20
② 思考・判断・表現	家庭や地域の生活について課題を見出すことができたか。また、その課題解決を目指して思考を深め、適切に判断・工夫し、創造する能力を身につけることができたか。	20
③ 技能	家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な技術を身につけることができたか。	30
④ 知識・理解	家庭生活の意義や役割を理解し、家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけることができたか。	30

具体的には

- ・授業に取り組む姿勢 (①, ③, ④)
- ・実習で作成した成果物・作品 (①, ②, ③)
- ・授業中での発表 (プレゼンテーション) (①, ②, ④)
- ・定期考査 (1学期期末考査と学年末考査) (②, ④) を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	・学校家庭クラブ活動 ・キャリアを見つめる 第1章 自分らしい人生をつくる ・生涯発達の視点 ・青年期の課題	・学校家庭クラブ活動の意義や方法について知る ・自分の生活と自分自身についてみつめ自己理解を深める	・学習ノート ・ワークシート	○	○	○	
	5 月	・人生をつくる ・家族、家庭を見つめる ・これからの家庭生活と社会	・現代の家族の特徴について理解し家族と社会とのかかわりについて関心を持つ ・家族・家庭の法律を理解する	・ワークシート	○	○		○
	6 月	第2章 子どもと共に育つ ・子どもの育つ力を知る ・親として共に育つ ・これからの保育環境	・乳幼児期の心身の発達を理解する	・実習・レポート ・学習ノート ・ワークシート	○	○	○	
	7 月	第3章 高齢社会を生きる ・高齢期を理解する ・高齢者の心身の特徴 ・これからの高齢社会	・高齢期への関心を高める ・高齢者疑似体験 ・高齢者の生活課題	・実習 ・学習ノート ・期末考査	○	○	○	○

平成31年度 1年生シラバス

夏季休業	8月	・ホームプロジェクト宿題	・自ら課題を設定し、計画、実行し、新たな課題を見つけ、生きる力を身につける。	・ホームプロジェクト評価表 ・学習ノート	○	○	○	○
2学期	9月	第4章 共に生き、共に支える	・社会で支え合っている仕組みを学んだ上で、これからの社会に必要なことを考える	・学習ノート ・ワークシート				
		第7章 住生活をつくる ・住生活について考える ・これからの住生活	・平面図の読み取り方 ・自然災害・人為災害への対策 ・持続可能な住生活を目指して	・ワークシート ・学習ノート	○	○	○	
	10月	第5章 食生活をつくる ・食生活の課題について考える ・食生活の安全と衛生	・現代の食生活の問題点について把握し、自らの食生活について多面的に考える力を養う	・実習・レポート ・ワークシート	○	○	○	
	11月	・生涯の健康を見通した食事計画 ・調理の基礎	・調理を科学的に理解する ・調理する目的を理解する	・実習・レポート ・期末考査	○	○		○
	12月	・これからの食生活 ・食事を作ってみよう	・より健康的な食生活を送るための手立てを考える	・実習・レポート ・学習ノート	○	○	○	
3学期	1月	第6章 衣生活をつくる ・被服を入手する ・学校家庭クラブ活動（卒業生へのコサージュ作り）	・被服の意義を知る ・被服の選択と購入について理解する ・卒業生へのコサージュ制作	・ワークシート ・学年末考査	○	○	○	○
	2月 ・ 3月	・被服を管理する ・これからの衣生活 ・被服製作  第8章 経済生活を営む ・職業生活を設計する ・これからの消費生活と環境	・洗剤の特徴を知る ・被服の手入れ方法 ・並縫い、祭り縫い、ボタン付けなど日常的に必要な技術を身につける。  ・適切な消費行動をする力を身に付け、持続可能な社会を形成できるようにする	・学習ノート  ・ワークシート ・学習ノート	○	○	○	○

4. 学習方法

- ①教科書に沿って進めていきます。教科書準拠の学習ノートは予習・復習にも活用し、授業をよく聞き自分ならではの工夫しながら記入しましょう。随時、学習ノートを提出してください。
- ②実生活で実践できるよう、生活とのかかわりを持たせて進めていきます。学習ノートファイルや別紙プリントを活用し、実習を行います
- ③実習は各单元ごとに行います。実習中の取り組み状況、実習プリント等の総合評価をします。提出を確実にしていくようにしましょう。
- ④授業を生かした地域・家庭での実践活動として、夏休み中にホームプロジェクトを実施します。自分で課題をみつけ実践・まとめ・発表をします。

5. 教科担当者より

みなさんが将来自立した生活をするために必要な基礎的・基本的な知識や技術を学習していきます。学んだことを確実に身に付けていくためには実生活で生かしていくことが大切です。常に課題意識をもち、習得した技術や知識を今後の生活に生かしていくことができるよう心がけましょう。

教科・科目				対象生徒	
教科	科目	単位数	履修形態	学年	コース・HR
情報	社会と情報	2	必修	1	全HR
使用教科書	社会と情報 Next (数研出版)				
副教材	ポイント整理 情報モラル (数研出版)				

1. 学習の到達目標

情報及び情報技術を活用するための知識と技能を習得させ、情報に関する科学的な見方や考え方を養うとともに、社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解させ、社会の情報化の進展に主体的に対応できる能力と態度を育てる。

2. 指導または評価の観点 (年間の評価)

評価の観点		
各観点	評価の観点の趣旨	評価の割合
①関心・意欲・態度	情報や情報社会に関心をもち、身のまわりの問題を解決するために、自ら進んで情報及び情報技術を活用し、社会の情報化の進展に主体的に対応しようとする。	30
②思考・判断・表現	情報や情報社会における身のまわりの問題を解決するために、情報に関する科学的な見方や考え方を活かすとともに情報モラルを踏まえて、思考を深め、適切に判断し表現している。	15
③技能	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な技能を身に付け、目的に応じて情報及び情報技術を適切に扱っている。	25
④知識・理解	情報及び情報技術を活用するための基礎的・基本的な知識を身に付け、社会における情報及び情報技術の意義や役割を理解している。	30

具体的には、授業に取り組む姿勢、実習作品、授業中での発表 (プレゼンテーション等)、小テスト・実技テスト・定期考査を主な評価対象とします。

3. 学習内容

学期	月	学習内容	学習の活動・ねらい	評価方法	評価の観点			
					①	②	③	④
1 学期	4 月	オリエンテーション 入力練習	CAI 教室の利用方法, 学習用PCの使用方法を理解 する 文書処理ソフトの活用方法	ルール・マナー等 の理解 実習への取り組み 実習作品等	○		○	○
	5 月	序編 情報とメディア 第1章 情報とメディアの 特徴	著作権と産業財産権の保護の 必要性を十分に理解し、著作権 法がどのようなものか具体的 に学ぶ。	実習への取り組み 実習作品等	○		○	
	6 月	第1編 情報社会と情報モラ ル 第1章 人・社会とのかかわ り	個人情報保護の重要性を理解 し、肖像権・プライバシー権に ついて学ぶ。	実技テスト 授業への取り組み	○	○	○	
	7 月	第3章 法とのかかわり		定期考査	○	○		○
	8 月							

2 学 期	9 月	第4編 望ましい情報社会の構築 第1章 情報社会における問題解決	表計算ソフトの利用法を理解し、問題解決の手段として活用できるようにする。	実習への取り組み 実習作品等	○		○	
	10 月			実習への取り組み 実技テスト	○	○	○	
	11 月	第2編 デジタル情報と情報の活用 第1章 情報のデジタル表現	ビットの概念、コードとコード化を理解し、それを表現するための2進数について学び、さらに2進数を用いた数のデジタル表現、文字のデジタル表現について学ぶ。	授業への取り組み 小テスト	○		○	○
	12 月		音、画像、動画のデジタル化の原理を理解する。 データ圧縮の原理と具体例について学ぶ。	授業への取り組み 定期考査	○		○	○
3 学 期	1 月	第3編 情報通信ネットワーク 第2章 インターネットのしくみ	コンピュータでの通信の基本的な方式やプロトコルについて理解し、インターネットでの通信の原理を学ぶ。 IP アドレス、ドメイン名、URL などによるインターネットでの電子メール・ウェブ閲覧の原理を学ぶ。	授業への取り組み	○		○	○
	2 月	第1編 情報社会と情報モラル 第2章 技術とのかかわり	情報セキュリティの確保の方法、暗号やデジタル署名について学び、情報セキュリティを脅かす事例とコンピュータウイルスとその対策の具体例を学ぶ。	授業への取り組み 定期考査	○		○	○
	3 月	第4編 望ましい情報社会の構築 第1章 情報社会における問題解決	統計の基本的な考えを理解するとともに、それをを用いてデータを整理・分析し傾向を把握できるようにする。	授業への取り組み 実習作品等	○	○	○	

#### 4. 学習方法

- ・教科書や学習用PC・授業プリント等を忘れずに準備すること。
- ・実習の授業では、説明を聞くときは手を止めてしっかり聞くこと。

#### 5. 教科担当者より

中学まではなかった教科「情報」。便利になっている日常の中で、様々な情報を取捨選択し、自分の中でどのように処理して活用するかが問われます。そんな世の中を生き抜くために必要な知識と技術を磨きます。